

『本気・本物のHPNはまだ普及していない

積極的な教育・啓発活動が必要です』

11月ですが、ちょっとだけ秋があつて、すぐ冬になりました。日本の四季は、夏と冬だけ？そんな感じになってしまいました。季節の変化についていけません。

11月はイベントが多かったのですが、残念、最後のイベント、11月24日の釣りが中止になりました。22日に博さんから、突然中止のメール。船が故障、荒天の予想だし。残念。小浜の林先生、関西医大の北出先生と久しぶりに会えると思っていたのですが。おまけに23日のホテルキャンセルを忘れて、全額取られました。

2日と3日は千里金蘭大学の「百花繚蘭祭」。2日は生憎の雨だったのですが、ネイルもしてもらったし、うろうろして出店でいろいろ買ったり食べたりしてお金をたくさん使いました。夕方には雨は止み、盛大に実施された花火も見ました。翌日は快晴。参加者も多く盛り上がりました。子供達がたくさん来ていました。ニプロの佐藤さんもお嬢ちゃん二人を連れて来てくれました。カラオケ大会も猛者が出演、ビンゴ大会は大盛り上がり。最後の催し物は「せんせいショナル」と題する高齢教官(阿形先生、岩谷先生)のデュエット。「戦争を知らない子供たち」の歌に同じ高齢者だからと引っ張り出され、歌われました。

4日は振替休日なのに祝日授業日。1時限目は臨床医学Ⅱの講義。受講者は2人だけでしたが、がんばって講義をしました。翌5日は大阪青山大学の看護学部での講義。4年生、80人ほどが、非常に熱心に講義を聞いてくれました。講義の感想文に「勉強になった」と書いてくれた学生が大部分で、講義をしてよかったと思いました。来年も、と依頼されています。

9日は愛媛県立八幡浜高校の同窓会が松山市で開催されました。昭和29年生れが古希になるので、その記念同窓会。40人ほどが集まりました。私は早めに松山へ着き、道後温泉と松山城を観光しました。名前と顔が一致しない人もいて、それは当然なのですが、卒業アルバムをプリントして持って行って確認しました。話ができた人は数人でしたが、まあ、同窓会ってこんなものでしょう。みんな、年取っていました、当然ですが。翌日はJRで帰阪予定でしたが、瀬戸大橋線のトラブル。いつ回復するかわからないとのこと。どうやって大阪へ戻る？困り果てていろいろ考えたのですが、神戸までのJRバスに乗ることができて、無事帰阪、でした。バスは、結構快適でした。

13日の看護学部での栄養学講義は、森永乳業クリニコ(株)に来ていただいて試飲・試食会。学生達、楽しそうに試飲・試食していました。いい経験になったはずです。今回は、飲むのはクリームルだけとし、試食中心にしました。プリンや茶わん蒸しが好評でした。中島さん、大門さん、茅野さん、小林さん、ありがとうございました。当大学も広



↑ 阪急北千里駅から大阪大学方面へ向かうこの道路は、「三色彩道」と呼ばれていて、結構、紅葉で有名だそうです。たくさんの方が写真を撮っていました。私も、一応、車の中から撮ったのですが、秋です、紅葉です。きっと短い紅葉期間でしょう。



↑ 11月2日と3日、千里金蘭大学の百花繚蘭祭が開催されました。2日は生憎の雨。豪雨と言ってもよい雨でした。夕方には止みました。3日は快晴だったおかげで、お客さんも多くてかなり盛り上がりしました。ステージは屋外で、上段は高齢教官によるデュエットで、黒枠内のように私も高齢教官なので引っ張り出されました。右はカラオケ大会で大活躍の藤崎くんです。下は大盛り上がりのビンゴ大会。ニプロの佐藤さんもかわいいお嬢ちゃん二人を連れて参加してくれました。ビンゴの景品は、カップラーメンがほとんどでしたが・・・。

報活動がちょっと進歩したのでしょうか、このイベントを掲示板に発表していました。

翌14日は、JCHO 神戸中央病院の医療安全講習会での講演。「栄養管理とリスクマネジメント」と題して講演しました。2月の西宮での講演を聞いてくださった医療安全の方が気に入ってくれて、この講演が実現しました。この領域、いくらでも話すネタがあります。「栄養管理」の講演には集まらなくても、これに「リスクマネジメント」をプラスすると、興味を持って聞いてくれます。維持輸液だけで1週間管理するのは栄養障害を作り出している、PICCからPPN輸液を投与してはいけない、こういう感じの内容で講演。意味がある講演だったのか、わかりませんが、たぶん、聞いてくださった方々は、何かを感じていただいたと思いたいのですよね。

16日は久留米大学で第20回日本在宅静脈経腸栄養研究会があり、15日に久留米に入りました。世話人でもないのに会長の加治先生に呼んでいただき、久留米大学の溝手先生、田中先生、石橋先生にもお会いすることができました。ありがとうございました。溝手先生は82歳だそうで、お元気でした。翌日の研究会には、大好きな「赤」のシャツを着てこられました。残念ながら研究会は参加者が35人ほどで、今回で発展的終回となりました。HPN研究会は大阪大学の岡田正先生が、HEN研究会は新潟大学の武藤輝一先生が始められたのですが、40年の歴史の幕を下ろしたことになります。非常に寂しいものを感じました。いろいろ質問などをしてちょっと盛り上げ過ぎたかな？かき回し過ぎたかな？と思ったり。この研究会はHPNの最先端を議論する研究会だったはず、最後に私がかき回してしまった、そんな感じ。故岡田先生に叱られそう。かつて、東京女子医大の城谷先生を、フロアから井上善文が責め立てた、そんな歴史も思い出しました。CVポートが普及し始めた頃のことです。久留米には何回も行ったことがあるのですが、初めて久留米城跡に行きました。九州新幹線が走っている写真を、タイミング良く撮ることができました。いろいろ、いい思い出ができました。

そうして24日には釣りだったのですが……。



↑今年も教え子？ネイリストの峯田さんが大学祭に来てくれて、またまた私のネイルケアをしてくれました。今年も最初の客になりました。臨床医学の講義の時に「将来、どこで働きたいのですか？」というアンケートを取った時、「ネイリストになりたい」と書いた学生がいて、変な学生だと思っていたのです。本当に「ネイリスト」になって活躍中です。移動式ネイルサロンとして、結構有名になっています。教え子、がんばれ！



↑この規模の大学の大学祭としては異様に？りっぱな花火です。本当、りっぱな花火です。演出もあります。運動場の周りにはたくさんマンションが建っているのですが、その方々がベランダに出て花火鑑賞。最高の場所ですよ。大学の周りのいろいろなお店からも協賛してもらっているとのことです。



← 8月に愛媛へ墓参りのために帰省した際、愛媛新聞を見ていたら「てかがみ」欄に左の記事が。こんな記事を見つけるなんて、偶然、奇跡！と思って、この記事を書いた〇〇さんにお便りを出しました。八幡浜高校の同級生で、一緒に生徒会活動をやっていました。しかし、高校卒業後は年賀状のやり取りだけで。会ったことはないのです。その〇〇さんが、私が出したはがきのこと、その後のことなどを「てかがみ」欄に投稿したら掲載された、と送っていただきました。右の「てかがみ 1枚のはがき」の記事です。50年ぶりの新聞紙面上での再会です。

ゼン先生：愛媛県立八幡浜高校の同窓会に行ってきました。

小越先生：へええ。古希の会なんじゃないか？

ゼン先生：そうですね。1954年生まれですから。

小越先生：古希か。本当、完全に、もう若くないな。

ゼン先生：40人ほどが集まりまして、ほとんどがリタイアして、悠々自適の生活をしている感じだったのです。私だけがあくせく働いているという感じがして、ちょっと違和感を感じました。

小越先生：まあ、それは仕方ないだろう。仕事の内容にもよるし、だって、君自身、仕事以外にすることがないだろう。

ゼン先生：その通りなんですけどね。ふと、そんなことを考えただけです。どうしようもないことです。

小越先生：誰にでも迷いはあるものだ。しかし、走り続けることも大事だよ。

ゼン先生：そうですね。できるだけ、がんばってみます。ところで、この11月にはいろいろなことがありましたよね。

小越先生：本当だな、いろいろあったな。

ゼン先生：アメリカの大統領選、トランプが勝ちました。

小越先生：ノーコメントだ。

ゼン先生：兵庫県知事選挙、前知事の斎藤氏が勝ちました。

小越先生：ノーコメントだ。

ゼン先生：自民党の石破氏が、衆議院議員選挙では負けただけ、総理大臣になりました。

小越先生：ノーコメントだ。

ゼン先生：日本のプロ野球、セ・リーグで3位だった横浜 DeNA が日本シリーズで優勝しました。

小越先生：ノーコメントだ、と言いたいところだが、まあ、いろいろな意見や考え方はあるが、よくがんばった、と言いたい気持ちはある。本当、よくがんばったよ。

ゼン先生：アメリカの大リーグのドジャーズが優勝したことのほうが注目されたんですけど、僕は、日本シリーズにもっと注目して欲しいと、正直、思っているんです。

小越先生：その気持ちはわかる。

ゼン先生：大谷選手はすばらしいけど、なんか、ちょっと・・・食傷気味なんです。私だけでしょうか。

小越先生：オレもちょっと報道が過ぎているように思う。

ゼン先生：そうでしょうか？僕は、国内のスポーツにもっと注目して欲しいと、余計に思うようになりました。

小越先生：その通りだ。相撲だろう、君が好きなのは。

ゼン先生：そうです。元横綱で名相撲解説者の北の富士さんが亡くなったのは残念でしたね。北の富士さんと舞の海さんの解説、掛け合いを非常に楽しんでいました。

小越先生：確かに。北の富士関、82歳だったから、まあ、仕方ないことだけど。非常に面白い、人気のある解説をしてくれて

⇒松山城も何年か前にリニューアルされたとのこと。いい天気でした。多分、台湾の方だと思いますが、外国の方がいっぱいでした。確か、台湾—松山の直行便が就航したばかりだったからでしょう。



↑ JR 松山駅がリニューアルされていて、驚きました。列車が到着したホームは高架。え？ここはどこ？という感じでした。改札周辺も新しくなっていて、少々驚きました。



↑ まずは道後温泉へ。市電に乗ったら、若い方に席を譲られました。高齢者に見える？足腰はまだ強いのに。しかし、せつかく譲ってもらったのだから座らなくて。市電内は席を譲る若い方が目立ちました。松山の方は優しい！道後温泉の入り口には「からくり時計」と「正岡子規像」。2018年の「漢字・栄養100年イベント」を思い出しました。もう6年も前のことになってしまいました。



↑ 道後温泉本館もリニューアルされていました。温泉には浸かりませんでした。道後温泉のお湯は熱いのですよね。20年ほど前の外科代謝栄養学会の時、松末先生達と温泉に入って、2階で休みました。7月のこと。気温35度。エアコンなし。温泉は45℃？暑い！暑い！夏目漱石の頃の雰囲気を残すためにエアコンは入れていない、とのこと。残念だと思っていたのですが、今回のリニューアルで全館冷房中？それなら、行きますけど。



いたので、本当、惜しいと思う。北の富士関と同時に横綱に昇進した、玉ノ海がアッペの術後に亡くなった、なんていうことを知っている人も少ないだろうけどな。

ゼン先生：千代の富士を育てた名親方だったことも、覚えておいて欲しいですね。

小越先生：本当にそうだな。

ゼン先生：九州場所では大関琴桜が優勝しました。

小越先生：大関琴桜か。猛牛と呼ばれた先代横綱琴桜の孫だな。

ゼン先生：はい。先代琴桜は本当、強かったですね。

小越先生：強かった、確かに。昭和の大横綱、大鵬の孫もいるんだろう？

ゼン先生：はい。王鵬関です。期待しているのですが、まだまだですね。パツとしないなあと残念なんですけど。

小越先生：そのうち、そのうち、だよ。期待して待ちなさい。

ゼン先生：そう思いながら見えています。

小越先生：ところで、今回は、どんな話題を取り上げるんだ？

ゼン先生：そうですね。やっぱり、久留米大学で開催された、第20回日本在宅静脈経腸栄養研究会に参加したことでしょうか。

小越先生：久留米か。かつてはよく久留米に行ったな。

ゼン先生：そうですね。臨床栄養学の領域で有名な掛川先生、溝手先生がおられましたから。

小越先生：吉田祥吾もいたじゃないか。

ゼン先生：私は非常に仲良しなんですよ。

小越先生：日本在宅静脈経腸栄養研究会か。略してHPEN研究会だな。

ゼン先生：そうです。Home Parenteral and Enteral Nutrition 研究会です。

小越先生：もともとはHPN研究会とHEN研究会だったのが、20年前に合体してHPENとなったんだな。

ゼン先生：そうです。第20回の今回で終回となりました。非常に残念です。

小越先生：岡田さんと武藤さんが、それぞれの研究会を設立したんだな。

ゼン先生：そうです。私はHPN研究会には、第1回から参加しています。1986年が第1回なので、私はもう阪大のIVH研で仕事をしていました。第2回のHPN研究会にはHickmanさんが来られました。

小越先生：あのヒックマンカテーテルのHickmanさんか。

ゼン先生：はい。その時の写真もあります。

小越先生：岡田さんと高木さんが、HPNを保険診療として認めさせる活動をしたんだな。

ゼン先生：お二人の功績です、診療報酬がついたのは。

小越先生：それが現在の在宅医療へとつながっている。

ゼン先生：当時はハイテク在宅医療と呼ばれていました。

小越先生：なるほど。HPNは人工腸管ともよばれていたよな。

ゼン先生：そうです。artificial gutでした。



↑ リフトで松山城へ上り、「松山城へ来ました」という記念写真を撮りました。いい天気でした。暑い日でした。



↑ 大阪へ戻ろうと松山駅へ行くと、瀬戸大橋線が不通とのこと。ニュースにもなっていました。瀬戸大橋の途中で停まってしまった列車のお客さんは6時間も車内に閉じ込められたとのこと。私は、JRの高速バスで神戸まで戻ることができました。レンタカーを借りようか、広島までフェリーで渡って新幹線で帰るか、飛行機にするか、迷ったのですが、快適なバスに乗れてよかったです。



↑ 久留米大学の加治先生が会長の、第20回日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集會に参加しました。溝手先生にお会いしたのは何年ぶりだったでしょうか。加治先生、ありがとうございます。私は5題、演題を出したのですが、加治先生の特別な御計らいにより、20分間の特別講演をさせていただきました。



↑ JR久留米駅前です。左は「とんこつラーメン発祥の地 久留米」の記念碑。とんこつラーメン発祥の地は博多ではなく、久留米なのです。真ん中からはかり時計。有名な発明家、田中久重翁を記念して設置されたとのこと。右は、もちろん、ブリジストンの世界最大級のタイヤです。さすがに久留米だな、という感じでした。

小越先生：artificial gut か、なつかしい。

ゼン先生：今は、CV ポートを用いた HPN らしきものは、非常にたくさんの症例に実施されるようになっていきます。

小越先生：HPN らしきもの？らしき？また、皮肉っぽい表現をしているが。

ゼン先生：「とりあえずの HPN」のような感じですから。

小越先生：なるほど。結構、気楽に CV ポートが留置されて、エルネオパ NF やワンパルを用いた HPN が実施されているんだろう？

ゼン先生：実態はわかりませんが、CV ポートがものすごく使われています。2022 年度の NDB データでは在宅中心静脈栄養法指導管理料が年間で 10 万件を超えています。

小越先生：へええ、そんなに増えているんだ。

ゼン先生：在宅成分栄養経管栄養法指導管理料より多いんですよ。在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料と合わせると同じくらいになりますけど。

小越先生：とにかく、その君が言う「りあえずの HPN」が非常に多くなっているのは間違いないな。

ゼン先生：胃瘻の代わりに CV ポート HPN が増えているんですよ。本来は胃瘻—経腸栄養が適応なのに、です。

小越先生：この話はもう何回もしてきたな。

ゼン先生：そうですね。私が問題にしているのは、安易な CV ポート HPN なんです。とりあえず CV ポートを留置して、エルネオパ NF やワンパルを投与する、です。

小越先生：エルネオパ NF1 号か 2 号を 1 バッグ、1000mL、ワンパル 1 号、800mL か 1200mL の 1 バッグだけを投与する。それだけなんだな。

ゼン先生：その通りです。エネルギー量はいくら、アミノ酸量はいくら、体重あたりではいくら、ビタミンや微量元素が必要量入っているか、なんて考えない、そんな処方でしょう。

小越先生：もちろん、脂肪乳剤は投与しない、だろう？

ゼン先生：もちろんです。考えてもいないでしょう。

小越先生：しかし、それだけ症例が増えたら、管理レベルも自然に上がるだろう。

ゼン先生：いやあ、そこが問題です。感染させないように、とか、有効な栄養管理をする、とかは考えていないようです。

小越先生：ただ、やってるだけなのか。

ゼン先生：そうなのでしょう。感染すれば CV ポートを抜去して入れ換えたらい、です。

小越先生：PICC での HPN もものすごく増えているんだろう？

ゼン先生：その通りです。地域による差は大きいようですが。

小越先生：それは、なぜ？

ゼン先生：PICC の普及率に関係していると思います。

小越先生：PICC って、全国的に普及しているんじゃないのか？

ゼン先生：そうではないようです。ある意味、診療看護師や特定看護師の普及と関連しているようですが。



↑ 久留米といえばブリヂストンです。ブリヂストン通りがありまして、ここを通過して久留米大学病院と久留米城跡へ行きました。創業者は石橋氏。Stone-Bridge だから Bridgestone と命名したのです。確かに、Stone-bridge よりも Bridgestone のほうが言いやすい、ですね。



↑ ランチョンセミナーでお弁当を食べたのですが、2 時過ぎには帰阪のために JR 久留米駅へ。やっぱり久留米ラーメンを食べなくては、ということで、私が生まれた年に創業したという「来福軒」で食べました。味は、まあ、あんなものでしょう。右下は「久留米大学ラーメン」です。記念に買って帰りました。



↑ 研究会会場の筑水会館の裏には陸上競技場がありまして、その向こうには久留米城の石垣がありました。いい雰囲気だなあ、と思いながら写真を撮りました。久留米大学のどこかは覚えていないのですが、私、剣道の全医体で久留米大学で試合をしたことがあります。私の剣道のデビュー戦なのです。武勇伝ではないのですが、忘れられない思い出の地なのです。

小越先生：医師が PICC を挿入しているんじゃないのか？

ゼン先生：地域によるようです。大病院には診療看護師や特定看護師がたくさんいて、PICC をものすごく使っているようです。

小越先生：そうして PICC で在宅へ、だな。

ゼン先生：はい。PICC で在宅へ、を否定するつもりはないんですが、ちょっと考え方が安易すぎると思っています。

小越先生：確かにそうだな。やっぱり PICC のほうがカテーテ

ル管理としての合併症発生率は高いはずだから。

ゼン先生：そうです。まあ、ある意味、高齢者医療としてはPICCでのHPNは短期間なので、わざわざCVポートを入れるまでもないか、となりますが、良性疾患というか、本当に長期管理が必要な症例に対するHPNの管理技術がレベルアップしていないのじゃないかと心配しているんです。

小越先生：長期HPNか。

ゼン先生：そうです。クローン病や短腸症候群などです。

小越先生：短腸症候群か。武田薬品工業から発売されたレベスティブがよく使われているんじゃないのか？

ゼン先生：どのくらい普及しているのかは知りませんが、たくさん使われるようになってきているようです。

小越先生：ヒトグルカゴン様ペプチド（GLP）-2類縁体だな。

ゼン先生：GLP-2は腸管内分泌細胞（L細胞）から分泌されて、栄養分の吸収を促進したり、腸管粘膜の維持・修復に関与するので、有効性は証明されています。日本で発売されてもう3年になります。

小越先生：すごくいい薬剤なんだろう？

ゼン先生：そう思います。

小越先生：どんどん使えばいいじゃないか。

ゼン先生：そうもいかないと思いますよ。薬価がものすごく高いんです。

小越先生：そんなに高いのか。

ゼン先生：高いですよ。3.8mg瓶の薬価は73,683円です。

小越先生：へええ、そんなに高いのか。

ゼン先生：これを毎日投与するんです。計算すると、1か月30日として221万円です。1年では約2,690万円です。

小越先生：すごいな。2,690万円か。1人につき。

ゼン先生：ずっとなんですよ。1年で投与が終わるのではないんです。何年も、何十年も莫大な医療費を使うことになります。

小越先生：抗がん剤も高価だけど、これもすごく高価だな。

ゼン先生：そう思います。栄養管理として、濃厚流動食の値段が、1kcalいくら、なんて計算するのがばかばかしくなります。

小越先生：本当だな。

ゼン先生：PEGはやり過ぎだ、となって、その件数を減らすために胃瘻造設術の診療報酬点数を1万点から6000点に減らしましたが、そんなレベルではないですよ。

小越先生：確かに。

ゼン先生：その上、PEGの代わりにCVポートが増えて、手技に関する診療報酬は逆に増加しているはずですよ。

小越先生：なるほど。そういう考え方もしなくてはいけないな。

ゼン先生：そうなんです。それに、僕が今問題だと思っているのは、レベスティブを使うと小腸機能が回復する、HPNとしての輸液投与量を減らすことができる、その結果としてカテーテル関連血流感染症を減らすことができる、という考え方なんです。

小越先生：HPNでのCRBSIは減るのか？



↑久留米城跡は篠山神社になっていました。全体として、です。うろろしました。筑後川のそばです。タイミングよく九州新幹線の写真を撮ることができました。

ゼン先生：腸管機能が回復して bacterial translocation が減って、それによる血流感染、ひいてはCRBSIが減るという考え方はありますが。

小越先生：なるほど。bacterial translocation が減るか。

ゼン先生：否定はしません。しかし、CRBSIの発生頻度がもともと高いような管理しかできていない場合は減らない、と思っています。

小越先生：もともとCRBSI発生頻度が高い？

ゼン先生：高い施設が多いと思います。武田薬品工業がウェブでの講演会をやっていて、私も拝聴させてもらっているんですが、レベスティブを使う前のHPNの成績が悪い施設からの発表が多いんです。

小越先生：それは結構重要な問題だな。

ゼン先生：もちろんです。その成績が悪いことに関して、反省はないし、管理が悪いはずなんですけど、仕方ない、と受け止めているように思います。

小越先生：CRBSIが起こるのは仕方ない？

ゼン先生：長期HPNでは、CRBSIが起こるのは仕方ない、そう思っている施設というか、担当医が大部分だと思います。

小越先生：それは困った問題だな。

ゼン先生：私はそう思っているのですが、思っておられないが

大部分のようですから、どうしようもありません。そういう考え方の人は、とにかくレベスティブを使えばCRBSIの発生率も下がると思っていますから。

小越先生：そういうことか。

ゼン先生：レベスティブの使用を否定するつもりは毛頭ありませんが、並行して、HPNの適正な実施方法、カテーテル管理方法についても、もっともっと啓発活動が必要だと思うんです。このままでいくと、HPNには力を入れなくなって、余計に成績が悪くなるとしか思えません。

小越先生：なるほど。そうになっていくだろうな。

ゼン先生：それに、HPEN研究会のように、HPNを専門的に検討する研究会もなくなりましたから。在宅医療は、積極的に実施しよう、そういう動きになっていますが、HPNに関しては、今後レベルアップするとは思えないのです。

小越先生：他の在宅関連の研究会や学会があるだろう？

ゼン先生：在宅医療連合学会は、静脈栄養についてはほとんど検討されなくなっているようです。在宅医療学会の時は、まだ静脈栄養に関する検討もされていましたが、連合学会となったからは、その領域には力が入っていないようです。

小越先生：それは大変なことだ。

ゼン先生：いやあ、大変なことだと認識している人が少ないことも問題です。

小越先生：とりあえずCVポートを留置してエルネオパNFやワンパルを投与すればいい、という安易な管理になっているということなんだな。

ゼン先生：その通りです。

小越先生：10年、20年という単位でHPN実施期間を考える必要がある症例に対して、そういう期間、HPNを実施できる施設があるのか？

ゼン先生：ないとは言えませんが、本当、どのくらいあるのでしょうか。

小越先生：君も歳をとったし、な。

ゼン先生：もちろんです。今、診ている患者さん達と、どっちが長生きするか？もちろん、患者さん達のほうだからな、なんて会話をしています。

小越先生：ブラックユーモアに近いけど、その通りだ。

ゼン先生：やっぱり、そういう人材を育てるという活動が必要ですよ。

小越先生：だから、JANVICを設立したんだろう？

ゼン先生：そうなんです、なかなか、思うようにいきませんでした。カテーテル管理や静脈栄養に対する関心が低いのが原因だと思っています。

小越先生：本当に困った状況になってきているんだ。

ゼン先生：そうなんです。栄養管理全般にも言えることです。

JANVICは、いろいろ事情があって、もう、単独では開催できな



↑ 森永乳業クリニコ株式会社にしていただいた試飲会の様子です。看護学部の栄養学の講義の一環としてお願いしました。前回、液体濃厚流動食をたくさん持ってきてもらったのですが、少ししか飲まなくて余ったので、今回はゼリーなどの試食を多くしたのです。学生達は非常に楽しそうに試飲・試食していました。残った製品を持って帰りたいという学生も多く、クリニコ社の大門さんは学生さん達に「じゃんけん」をさせて持って帰る学生を選んでいて、大門さん自身も楽しんでいただけたようです。よかったです。来年もお願いします。

井上先生の「栄養学」（看護学科）の授業内で 医療用流動食の試飲体験が行われました

11月13日に井上先生の授業「栄養学」において、食品メーカー森永乳業クリニコ株式会社様のご提供による医療用流動食の試飲会が行われました。クリニコ社は高齢者や疾患により通常の食事が困難な方々に向けた流動食を製造しており、その品質と実用性で多くの医療現場に採用されています。今回は、看護学科の学生達が実際に流動食を試飲することで患者様への食事提供の実際を学ぶことを目的として開催されました。試飲会において、学生達は流動食の味や質感を体験しながら、栄養素や成分、調整方法に関する説明も受けました。飲みやすさや栄養バランスを重視したクリニコ社の製品は、学生たちにとっても新たな発見が多く、今後の実務での応用を意識する貴重な機会となりました。試飲会終了後には、実際の臨床でどのように提供されているのか、また味覚や見た目の工夫についても理解を深めました。

参加した多くの学生からは「茶わん蒸しなど、高齢者に合わせた内容の流動食もあることなど、味や触感にも工夫されている点に気づけた」との感想があり、流動食への理解が深まった様子がうかがえました。「濃い味で少量でも栄養素がしっかり入っていることがわかった」と話す学生も多く、実際の患者の目線に立つことの大切さを再認識する場となりました。栄養バランスについて「一食でこれだけの栄養が摂れるのかに驚いた」といった声もあり、栄養素が豊富に含まれた食品の重要性を学ぶ貴重な経験とすることができました。

↑ 千里金蘭大学の掲示板には、このような記事が掲載されました。こういう活動をしていることを、学内でもっと積極的に広報するべきだ、と私がずっと主張してきていて、やっと実現した、という感じがします。学生達にも広報するべきです。学生達も知っておくべきです。これは、きっと意味のあることですから。次のニプロの製品説明・実技の会も、ちゃんと広報してくださいよ。ニプロがこれを実施しているのは、関東は上智大学だけ、関西は千里金蘭大学だけなのです。

くなりましたので、リーダーズ学術集会の中で演題を集めようとしています。だから、リーダーズで、静脈栄養やカテーテル管理に長じた若い人材を育てたいんです。

小越先生：なるほど、そういうことか。それじゃあ、リーダー

ズにたくさん参加して欲しいなあ。

ゼン先生：そうです。リーダーズの中で、ハイテック HPN や CV ポート、カテーテルの管理についても議論したいんです。

小越先生：なるほど。リーダーズの演題としても大事な内容だからな。

ゼン先生：よく考えたら、リーダーズの演題の中で静脈栄養関連の内容は減り気味でしたので、いいタイミングかもしれません。

小越先生：確かに、そうだな。オレもそう思う。

ゼン先生：次の第17回は2025年3月8日と9日に横浜で開催（会場：はまぎんホールヴィアマール）するので、大勢、参加して欲しいと思っています。会長は神奈



↑千里金蘭大学の9階の窓からの夜景です。私は、時々、一人でこの夜景を楽しんでいます。短い秋の夜景は、特に素晴らしい。是非、見に来てください。その時は、私に連絡してください。

川県立こども医療センター外科の北河先生です。非常に張り切っておられます。本当、大勢の方に参加して欲しいのです。



↑大阪大学の岡田正先生が設立されたHPN研究会です。左は第2回研究会の時の写真で、ヒックマンカテーテルのHickman RO先生をお招きして開催されました。右の写真は阪大のHPNの歴史を語る内容でしょうか。HPNの器材を収納するジャケットも開発しました。右上の写真の男の子は阪神タイガースの大ファンで、HPNの器材を用いて阪神甲子園球場へ観戦に行きました。この話を聞いた、阪神タイガースの小林投手が病室へ見舞いに来てくれたという逸話もあります。短腸症候群、残存小腸ゼロcmの患者さんがHPN実施下に出産されました。その赤ちゃんは、もう40歳を超えていると思います。岡田正先生、薬剤師の笠原伸元先生、鈴木先生もこのHPNの普及に大きく貢献されました。右下は、そのIVH研究室の仲間が集まった食事会の写真です。真ん中が高木洋治先生です。

【今回のまとめ】

1. もうすぐ2024年が終わります。2024年を振り返るのは12月になってからと思っていますが、大したことはしていないなああと、もう、反省しています。
2. 世界中が落ち着きません。ウクライナ問題、パレスチナ問題、ロシア・北朝鮮・中国の動き、そしてトランプ次期大統領。平和な世界になるとは思えないのがつらいですね。
3. GLP-2 類縁体のレベスティブが短腸症候群症例に使われるようになっていますが、HPN症例がなくなるわけではありません。CRBSI 発生率が減るのではないと思っています。
4. 10年、20年という単位でHPNが必要な症例に対して、その期間を管理できる施設が日本にどれだけあるのでしょうか。
5. レベルアップを図るための研究会であったHPEN研究会が終回となりました。そういう意味では、リーダーズとして、もっと頑張らなくてはなりません。2025年3月8日と9日、第17回リーダーズを横浜で開催します。